

清溪小学校と安威小学校のみなさんといっしょに、
身近な自然環境について学ぶ「環境教育」の取り組みをおこなっています。

茨木市北部・泉原にある清溪小学校と、安威川下流の安威地区にある安威小学校で、bioa(ビオア)をはじめとする地域の多様な主体と安威川ダム建設事務所、請負業者である大林組JVの協働・協力のもと、自然・地域・防災の理解を深めるための環境教育の取り組みが進んでいます。

清溪小学校では、地域の自然と生物環境について学ぶため、安威川ダム建設工事現場の見学や、校内でのビオトープづくりを実施しました。このビオトープは、全校児童15人が学習しながら計画をつくり、PTA・地域の方々も作業に参加して完成させました。

安威小学校では、4年生の児童が、自分たちの住む地域の環境・地球の水循環・人と水との関わりなどを学びました。水辺環境を実際に見て触れて学ぶ「水辺の楽校」は水生生物センターや茨木土木事務所、地元安威地区の住民の方々にもご協力いただき、昔の安威川の様子や地域との関わりについてお話していただくなど、地域の自然・防災を学ぶ授業を実践しました。子どもたちの身近な環境の理解を深め、その将来を担う人へと育てていくことができるような環境教育を協働で進めていきます。

安威小学校の児童たちといっしょに取り組み
ダムキャラクター絵本づくりがはじまります!

「市民が育てる安威川ダムプロジェクト」として、平成25年度の公募で選ばれた「安威川地域マスコットキャラクター・オーサン(仮称)」を絵本にしよう!という企画が進んでいます。このプロジェクトでは、平成28年1月から、安威小学校の児童のみなさんといっしょに絵を描いて、実際の絵本づくりを進めていくことになります。また、今後のキャラクター展開を考える市民参加によるワークショップも予定しています。ぜひご期待ください。



webページでは、ダム建設工事情報をはじめ、様々な取り組みの最新情報を随時お届けしています!

[AIGAWA.jp](http://aigawa.jp) 検索 [facebook](#) 安威川ダムファンづくり会 [安威川ダム周辺整備WS](#) 検索
安威川ダム総合情報サイト facebook ページもぜひご覧ください

INFORMATION

安威川ダム工事現場を一望できる大門寺北側高台ゾーンは、いつでも見学可能です。 ※ 安威川ダム資料館へのご来館は事前にお申込みください

安威川ダム建設地近くの大門寺北側高台ゾーンにある「安威川ダム資料館」は、ダム工事のPR施設としてだけでなく「ダム周辺の地域づくりの拠点」となることを目的として開設されました。ダム工事の進捗状況や地域情報の発信基地、里山・山間部地域で活動する人々の拠点として、安威川地域を愛するすべての人に開かれた施設です。資料館内には、安威川ダムや周辺の自然環境に関する解説パネルや、安威川流域の生物多様性を学ぶボード展示など、さまざまな学習教材が用意されています。また資料館のある高台からは、安威川ダム建設工事現場の全景を一望することができます! ぜひ一度訪れてみてください。



[安威川ダム資料館 所在地]



安威川ダム資料館は、安威川ダム堤体の建設予定地すぐ近くの大門寺北側高台ゾーンにあります。

[阪急茨木市駅から]
西口ロータリーから阪急バス「車作」行に乗車、「大門北」停留所にて下車。停留所から徒歩10分程度です。

安威川ダム資料館

場 所: 茨木市大字大門寺
大門寺北側高台ゾーン
開館時間: 要予約。
事前にお申込みください。

現在、資料館内へのご来館は、安威川ダム建設事務所まで事前のお問い合わせが必要になりますが、資料館横の展望台ゾーン(※)からは、いつでもダム工事現場を見ていただくことができます。
※ 大門寺北側高台ゾーンへは、9時~16時までの間は自由に見学可能です。

「安威川ダム情報交流センター」へお越しください。

安威川ダムについて皆さんに知っていただくために、「安威川ダム情報交流センター」を開設しています。ダムの役割やダム周辺の環境保全対策について、広く一般の方々に情報を提供するとともに、ご意見を頂くことを目的としています。

センター内では、ダム事業地周辺の立体模型やパース、パネルの展示、パンフレットの配布、ビデオ放映を行い、ミニ図書館も設けています。

自由に見学・閲覧できますので、皆さんぜひお越しください。



安威川ダム情報交流センター

場 所: 茨木市大住町 8-11
開館時間: 平日 10:00~16:00

※ 地下には駐車場がありますが、収容スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

(安威川ダム建設事務所ホームページ) <http://www.pref.osaka.lg.jp/aigawa/>

安威川ダム建設についてホームページを開設・運営しています。ダムの事業内容や環境保全対策について、わかりやすく解説したサイトです。過去の「安威川ダムニュース」(※1)「安威川ニュース」のバックナンバーが閲覧できるページ(※2)も用意しています。

(※1) 平成6年~平成25年に発行 (※2) <http://www.pref.osaka.lg.jp/aigawa/aidamu/damnews.html>

「安威川ダムファンづくり会」や「安威川ダム周辺プランワークショップ」、「安威川ニュース」発行等の取り組みは、大阪府安威川ダム建設事務所が、大阪府文化課・スポーツ課と府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)が実施する「プラットフォーム形成支援事業」を活用し、協働して推進しているものです。

<http://www.enokojima-art.jp/e/>



大阪府 安威川ダム建設事務所

〒567-0813 茨木市大住町 8-11 TEL:072(626)6083 FAX:072(623)5963
メールアドレス aigawa-dam-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

このパンフレットは、企画から印刷まですべてを外注して作成しています。(39万部作成。作成費用1部あたり9.4円)

自然と話そう、人と話そう!

安威川ニュース

みんなが参加して創っていく安威川の文化
人が集まる、出会いと交流の場MAP

ファンづくり会 メンバーインタビュー
教育・環境・観光の視点から地域づくりを考える

一緒に考え、育てよう! 安威川ダム周辺プランワークショップ
ダム周辺整備の構想をみんなで作ってあげていく

VOL.3

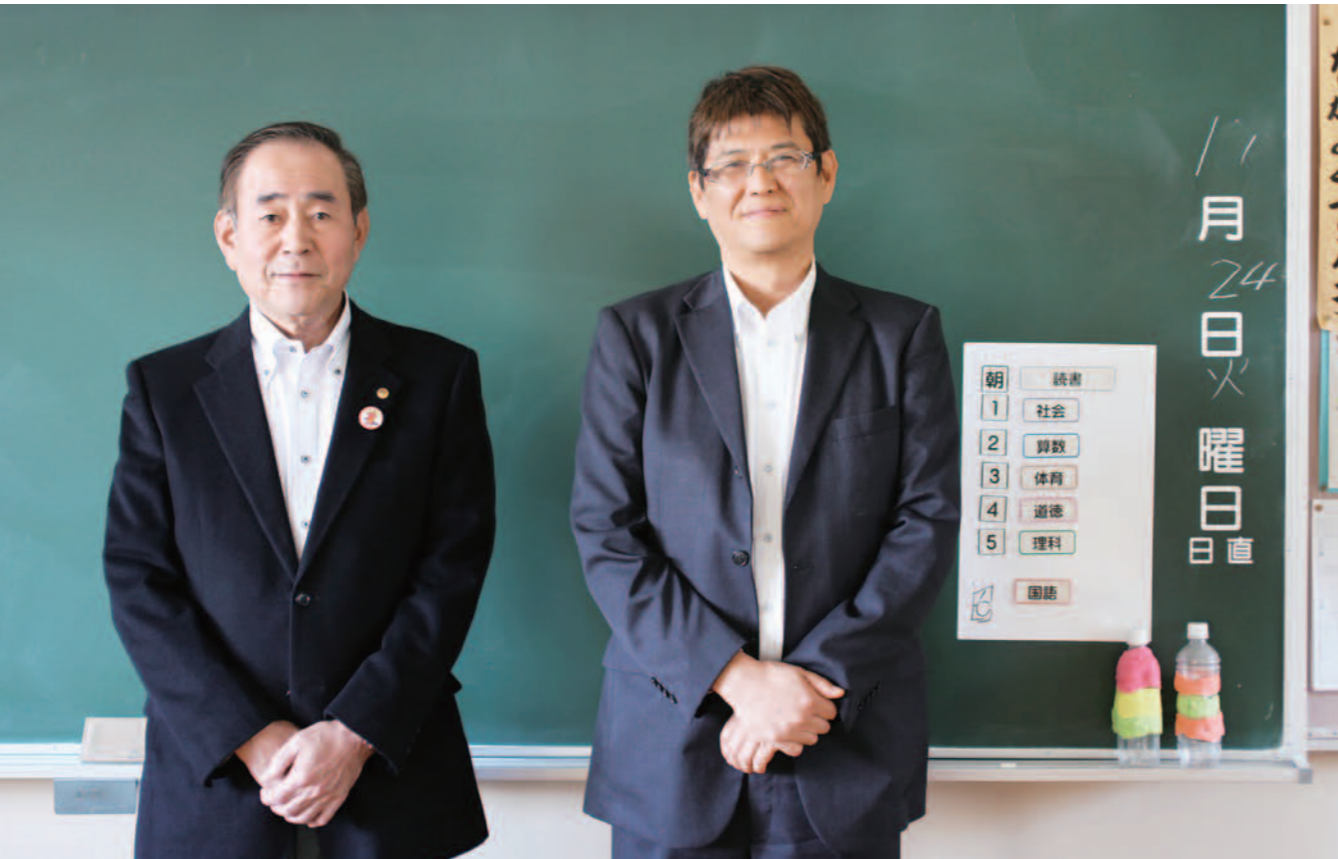
平成28年(2016年)1月号



茨木市立清溪小学校 全校児童のみなさん

教育・環境・観光をつなぎあわせて、自然ミュージアムを実現させていきたい。

茨木市観光協会副会長 松永 豊 さん(左) bioa(ビオア)代表 瀬口和矩 さん(右)



安威川流域に広がる豊かな自然環境。その資産価値を再認識するために。

— 「観光」という立場の松永さんから「環境」の専門家である瀬口さんに声を掛けられたとお聞きしました。そして現在、ここ清溪小学校でのビオトープづくりをはじめ、チームを組んで「教育」「環境」「観光」が、どのような展望でつながっているのでしょうか。

松永：二年前、安威川ダム建設についてのワークショップに参加した際、ダム周辺地域にサクラやモミジを植栽するプロジェクトを提案させていただきました。地元の方々からも賛同していただいたのですが、実際に進めていくとなると、その分野のプロの力が必要になるなど。そこで、以前から知人に紹介していただいていた瀬口さんのことが頭に浮かびました。お会いして、お話を聞いていると、瀬口さんの自然に関する知識、実践経験の豊富さに驚きました。そこで「ぜひ一緒に活動してください」とお願いしました。

瀬口：私自身も、安威川ダムと周辺の自然環境には、たいへん興味を持っていましたので、すぐにでもアクションをおこしたいと思いました。

松永：安威川ダムは市街地に近い場所に建設されます。その奥の北部には、とても豊かな自然環境が広がっている。茨木市にとっては、まさに資産ですよ。これを無駄にはいけないと思っていました。ダムができるからといって、箱物の商業施設を増やして集客していくのではなく、大自然そのものが観光につながっていく。そのような事業が実現できると考えています。



瀬口：茨木市の地形は、本当におもしろいです。まち、郊外、里山、大自然という環境が緩やかな傾斜でつながっています。こんな地形は大阪府内でも茨木ならではの環境です。賑やかなまちと豊かな自然環境、そして、ゆったりとした里山の景観が広がっている環境です。実際に棚田などの水田をはじめ、農業をおこなうための土地がたくさんあります。

松永：私が、サクラやモミジを植栽して増やしていきたいという発想も、そのあたりが原点ですね。日本の四季を感じることができる里山の原風景と、季節の恩恵を受けて暮らしている人々の営みにスポットを当てたかった。

瀬口：そういったアドバンテージはありますね。

松永：そこで大事なことは、市民の方々に自然という資産価値を再認識していただきたいということです。だから、瀬口さんと進めている環境教育は大切な一歩だと考えています。ビオトープづくりなどを通じて、子どもたちが自然に関心を持ち、知識や経験を身につけていくことで、さらに家族の方々が自分たちを取り巻く自然環境の価値を見出し、それぞれの地域づくりに活かしていくという流れができると思います。

瀬口：環境教育というのは「人づくり」です。環境のことをみんなが意識し、考え、地域づくりにつなげていく。そのためには、しっかり環境と向き合っていける人を育てていかなければいけません。都会の子どもの多くは校区の中だけで日常を過ごしています。その校区に自然環境があるかないかで、子どもたちの原体験が変わってくる。知識だけではなく、自然と触れ合う機会を増やしてあげることが大切です。ビオトープづくりも、その一環だと考えています。

松永：自然を体験するということ。身体で感じるというのは、すごく大事ですよ。

瀬口：ビオトープを「小さな環境空間」と捉えている人も多いと思いますが、私たちの見地では地球全体がビオトープなんです。自然環境の仕組みは全て同じで、大きさは関係ないんです。ただし、水や土といったベースもそうですが、

生きものの頂点が違うと生態系も変わってくる。自然体験を通じて、自分たちが暮らす周辺環境を学ぶことによって、やがてそれが地域づくりにつながっていくのだと思います。



松永：茨木市の面積は吹田市の倍ぐらいあるんです。人口は吹田市の36万人に対して茨木市は28万人。人口に対して土地面積が広いんです。しかも半分以上が山間部です。これをもっと活かすべきですよ。5年後のダム完成に向けて、さまざまなプロジェクトが進められていますが、その動きとうまく連携し合って、この安威川地域を圧倒的なスケールの自然体験の場にしていきたいと考えています。

瀬口：ダムは人の命を守るためにつくられるのですが、開発という意味では一度自然を壊すわけです。だから壊した部分を再生したり、あるいは創出していかなければなりません。そこで大切なことは、もともと存在していた地域固有の生態系を考慮していくということです。茨木北部に生息する動植物を中心として、「創る」というよりは「戻していく」という姿勢が大事なんです。そのプロセスにおいて、環境教育は、とても重要なテーマだと言えます。

松永：行政、地元地域、教育関係の方々、みんなが一緒になって学び、考えながら、自然環境を守っていくということですね。そうすることで、あらためて自分たちの資産価値を再認識していく。

瀬口：そうですね。そのような場に環境教育の拠点を設けていくと、大阪府内をはじめ、全国から自然環境を学びに人が訪れるようになる。最近では「生物多様性」という枠組みで、さまざまなセクターや企業、地域も勉強をはじめているし、学校教育の現場でも生物多様性という言葉を使

うようになってきました。そのための行政の支援や法整備等も行われています。この流れは、今は小さいかもしれないけど、5年、10年というスパンで捉えていくと、もっともっと大きなうねりになっていくと思います。

松永：豊かな大自然という場だけを提供して、そこに行くだけで環境教育になる。

瀬口：派手なアトラクションやイベントを用意するのではなく、身近な自然環境を体験するプログラムを充実し、自然環境に感動するミュージアムみたいな場になればいいですね。

松永：そこでは、親子が一日中楽しむことができるし、老若男女問わず、たくさんの方が集まって来るでしょうね。しかも、そうなると地域の人たち自身が保全活動や施設の運営に携わったり、お店をはじめたり、農業や漁業が活発化するなど、新しい雇用が創出されますよね。自然環境を中心とした、人々のサイクルが生まれてくる。

ビオトープ：「BIO=生きもの」の「TOPE=すみか」という意味。学校や公園等の小さな自然も森や海の大自然もビオトープである。安威川周辺ではオオサンショウウオやオオタカを頂点とする豊かなビオトープがあり、人間が守るべき場所である。



(左上) 豊かな自然と里山の風景が広がる安威川上流地域 (右上) 茨木市立清溪小学校でのビオトープづくり (左下) 清溪小学校で行われた環境学習 (右下) 清溪小学校校舎内にある田んぼで行われた田植えの様子

自分たちの地域を自分たちでつくる。そのための仕組みづくりが大切。

— 「教育」が「環境」の下支えをして「観光」がそれを牽引する。そうすることによって、安威川ダム周辺地域の豊かな自然という資産価値を再認識してもらい、地域づくりにつなげていくという構想ですね。とても参考になります。その実現に向けて、今後は、どのような活動が中心になってくるのでしょうか。

松永：あまり目先のことは考えないようにしています。5年後のダム完成を視野に入れながら、じっくりと腰を据えて活動していきたいです。茨木市の地元の方々や安威川ダム建設事務所の方々と意見交換をし合って、具体的なコンセプトづくりを進めていきたいですね。

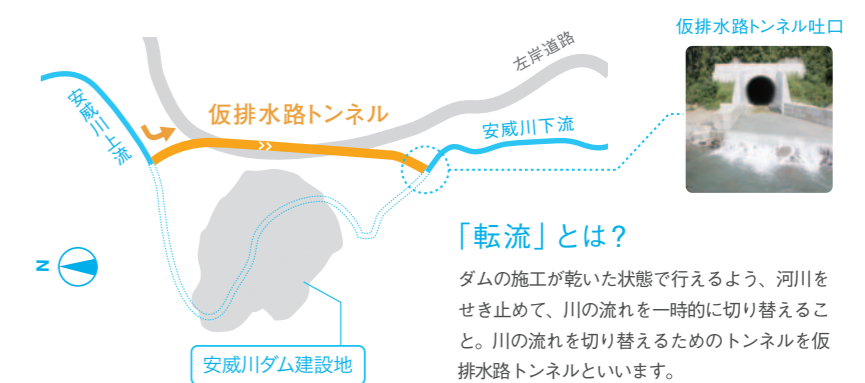
瀬口：自分自身のテーマとしては、清溪小学校や安威小学校で行っているような環境教育を、さらに地域づくりへとつなげていきたい。そのために現在、地域活性化のための事業を協働で行うプラットフォームづくりを行っています。子どもたちの目線を通して、大人たちの意識を変えていくことや、もっと多くの人に地域の資産を知ってもらうための仕組みをつくっていききたいと思います。



Dam Topics

ダム本体工事に伴い、安威川の流れを切り替える「転流」と、水生生物たちの救出活動が行われました。

平成27年9月15日、ダム本体工事に伴い、安威川の流れをせき止め、仮排水路トンネルへと流れを一時的に切り替える「転流」が実施されました。仮排水路トンネルは平成24年12月より着手され、平成27年3月に完成しました。内径7.1メートル、全長548メートルの大きなトンネルで、ダム堤体左岸側を迂回して安威川下流へと合流します。平成27年9月20～21日には、NPO nature works、bioa(ビオア)、NPO 芥川倶楽部、近畿大学学生団体 FeeLink、水生生物センター、茨木市環境政策課、大阪府茨木土木事務所が集まり、安威川に取り残される生き物の保護と救出が行われました。救出活動では、アジメドジョウやアカザ、ナマズ、カワムツなど、23種1086個体を丁寧に捕獲しました。この日保護された魚や小さな底生動物たちは、それぞれの環境に応じて、ダム本体工事の影響を受けない安威川上下流へ放されました。ここから、ダム本体の盛立てに向けた工事が本格化していきます。



(左) 上流仮締め切りで川の流れをせき止めている様子 (中・右) 水生生物の保護・救出の様子



次世代へつなぐ、学びと出会いの場 「安威川フェスティバル 2015」が開催されました。

安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを目指す人たちが会おう交流の場。

平成27年10月31日、茨木市大門寺北側の高台ゾーンにて、前年度に続いて2度目となる「安威川フェスティバル 2015」が開催されました。清々しい秋晴れのもと、前年度来場者数の3倍以上の約1300名の方にご来場いただき、大盛況のフェスティバルとなりました。今年度は「次世代へつなぐ、学びと出会いの場」をコンセプトに掲げ、安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを目指す人たちが会おう交流の場をテーマとし、山間部と市街地の活動が一堂に会しました。

フェスティバルで催されたプログラムは、昨年度の地元ワークショップでの意見をもとに、「自然に学ぶ」「文化に学ぶ」「ダムに学ぶ」「つなぐプログラム」の4つのテーマを導き出し、地元の方たちからのフェスに対する意見や提案も随時取り入れながら、プログラムの企画は安威川ダムファンづくり会が主体となっておこなわれました。ファンづくり会では、今年度から3つの部会を設定し、各部会ごとにテーマに沿ったアイデアを出し合い、全体での意見交換や議論を経て、プログラム案がつくられました。「環境部会」は安威川流域の自然と子どもたちが主役となり、見て触れて楽しみながら学べる教育プログラム、「アート・文化・教育部会」は食育をテーマとしたものや工作など、地元と市街地の交流を促進するプログラムを提案しました。そして「プロモーション部会」では、地元の活動団体と周辺や市街地の活動をつなぐプログラムや、会場でのおもてなしを提案しました。このように企画が進んだプログラム案は、準備段階から当日運営まで、多くの地元関係者や市街地の活動団体の支援と協力により実施に至りました。今年度のプログラム数は、前年度と比べ2倍以上の39に増え、子どもから大人まで楽しめる、多彩なプログラムを展開することができました。



「安威川ダム ファンづくり会」とは

府民による自立型の地域づくりを目指して、大阪府文化・スポーツ課が実施する「プラットフォーム形成支援事業」を活用して平成26年3月に発足したものです。従来の行政主導型ではなく府民自立型で、ダム建設中の段階から地域づくりのアイデアを出し合い議論することにより、一層府民のニーズにマッチした地域づくりを目指しています。

AIGAWA FES 2015 Report

【自然に学ぶ】

安威川流域の生物多様性をクイズ形式で遊びながら学べるプログラムや、茨木のまちの歴史・環境について学ぶ「環境クイズ」、安威川に生息する水生生物の生態展示や昆虫標本などの環境教育プログラムのほか、「丸太切り体験」「どんぐりボットづくり」などを展開。また、安威川上流漁業協同組合による「アマゴのつかみ捕り」は子どもたちに大人気で、特設プールで夢中になって楽しむ姿が印象的でした。



【文化に学ぶ】

食育をテーマとした「踊ってつくる! ペットボトルピザ」や「宙いもプロジェクト」の提供による焼き芋の販売など、地元食材を楽しむ食のプログラムや、安威川ダムのマスコットキャラクターを子どもたちと考える「みんなで作る! オーサン絵巻もの」、ダム工事の閑伐材を使った「つくれる家具ワークショップ」など、工作を楽しむプログラムも充実し、バラエティに富んだ企画が展開されました。



【ダムに学ぶ】

ダム建設の現場で活躍する大型重機に試乗したり、実際の工事現場をバスでまわる「ダム工事現場体験ツアー」では、間近で見る重機の大きさに大人も子どもも大興奮。家族連れのみなさんにも楽しんでもらい、ダム建設の状況をお伝えすることができました。会場では、大型ダンプのタイヤ展示、「安威川ダムケーキ」の販売など、ダムにまつわるプログラムが盛りだくさんでした。



【つなぐプログラム】

地元のお店が出店する飲食プログラムや、地元6地区のスタンプを集めて景品がもらえる「スタンプラリー」、来場者の写真を撮影して展示する「おもてなしプログラム」や、安威川周辺地域の魅力スポットを自転車で行く「サイクリングマップ」の配布などを実施しました。また安威川周辺の閑伐材を使用し、学生との協働で制作したテーブル&椅子の設置など、会場全体でプログラムを展開しました。



一緒に考え、育てよう! みんなのアイデアでつくる 安威川ダム周辺プランワークショップ。

安威川ダム周辺整備のコンセプトを みんなで共有して、つくりあげていく。

平成27年6月から11月までの全4回にわたり、安威川ダム周辺整備に向けた地域の活用アイデアをみんなで考える、府民参加型の「安威川ダム周辺プランワークショップ」を実施しました。以前から安威川ダムでは、地元住民の方々を対象としたワークショップを継続して実施してきましたが、安威川ダム周辺プランワークショップでは、募集で集まった府民のみなさんに参加していただくことで、より広い観点から意見集約することを目的としています。このワークショップで取りまとめられた意見・アイデアは、今後の周辺整備を実施する際の構想案に反映していくことを目指しています。

全4回のワークショップは、専門家(※)との連携によって進められました。ワークショップ参加者は、安威川ダム建設現場や周辺を見学し、ダム完成後具体的なイメージするためのレクチャーを受け、周辺整備についての議論の前提となる「安威川ダム周辺整備基本方針」を全員で共有しました。参加者から出た地域の魅力、活用についての意見は、専門家によって整理された後、具体的な空間のイメージバース図に反映されました。これを元に参加者は、周辺の9つのゾーンが振り分けられた各テーブルごとに意見交換をおこない、アイデアをブラッシュアップしていきました。ここで集約された府民のみなさんの意見は、今後の周辺整備計画の構想案に反映されていくことになります。安威川流域の美しい自然と調和する魅力的な地域づくりを目指して、これからの周辺整備事業を進めていきます。

※専門家
平成21年8月に大阪府と茨木市で策定した安威川ダム周辺整備基本方針に沿った各ゾーンの利活用に向けた基本コンセプト(案)を作成するために集まった、建築やランドスケープ、土木、アートなどの専門家チーム。大阪府、茨木市と協働しながら、周辺整備の具体的な内容について検討することを目的としています。



安威川ダムファンづくり会のメンバーになって、意見交換に参加しよう!

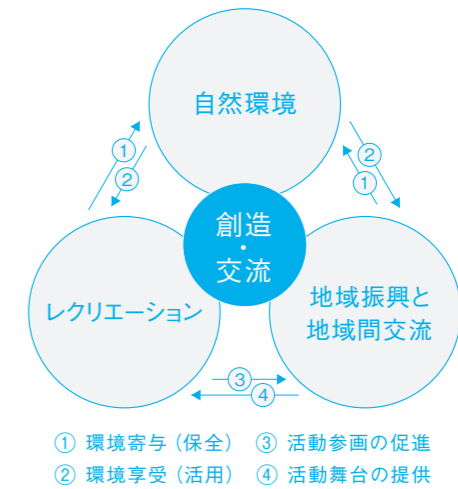
安威川ダムファンづくり会では、ダム周辺の魅力的な地域づくりを考えるべく、地域の活動団体やNPOなど、多様な主体が参加してミーティングを開催しています。府民の方のご参加も歓迎していますので、ぜひ意見交換に参加してみませんか。ご興味のある方は下記の問合せ先まで!

問合せ先：大阪府安威川ダム建設事務所企画グループ TEL：072-626-6083
メールアドレス：aigawa-dam-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

Dam Topics

地元の子もたちと自生していたヤマザクラを移植。 ダム湖の景観を今からつくっていきます。

安威川ダム完成時に水没する生保地区に自生していたエドヒガンというヤマザクラを左岸道路沿いの車作地区に移植する環境保全イベントを行いました。当日は地元の方々を中心に参加していただき、子どもたちが心を込めて土入れや水やりを行いました。工事で発生した伐採木で制作した記念碑も設置しました。また、車作地区の方々は左岸道路沿いに桜や紅葉の苗木を植え、ダム湖周辺の景観を工事中からつくってられます。その他、イベントを通じてダム周辺のドングリから苗木を育てる取り組みを3年前から始めています。皆様と環境を守り、美しい景観を創るために、生きたらイベントで植樹会を行いますので、是非ご参加ください。



【安威川ダム周辺整備基本方針】 未来につなぐ美しい自然、 創造と交流の湖畔の里

- 方針1 渓流と湖面に映える周辺景観の保全と再生・創出に努めます
- 方針2 ダム及びダム湖を拠点に地域資源を活かして北摂のシンボル空間を創出します
- 方針3 周辺環境の保全と地域資源の有効活用を適正に調和させます
- 方針4 周辺整備は公共と民間の協調・協同で進めます

【安威川ダム周辺整備検討委員会】による「安威川ダム周辺整備のあり方(提言)」を踏まえ、大阪府と茨木市で策定した「安威川ダム周辺整備基本方針(案)」をもとに、府民等のご意見を募集。これらを踏まえた形で平成21年に「安威川ダム周辺整備基本方針」を策定しました。

【安威川ダム周辺プランワークショップ】

- 第1回 ダムを知ろう! やりたいことを考えよう!**
現地見学とワークショップの二部構成で、地域の魅力について、全員で意見・アイデアを出し合う。
- 第2回 みんなで新しい空間を思い描こう!**
専門家がまとめた資料を前に、空間のイメージを共有して、前回の議論をさらに深く掘り下げる。
- 第3回 空間を疑似体験しよう!**
空間のイメージスケッチを見て、さらに具体的なイメージを膨らませ、アイデアをブラッシュアップさせていく。
- 第4回 完成イメージを共有しよう!**
修正されたイメージスケッチをもとにさらに議論を深め、周辺整備のコンセプトと空間イメージを共有する。

【専門家による とりまとめ】

- 専門家が考えるアイデアを提示し、周辺整備についての意見を出し合う。
- 前回までに出た、活用アイデアと意見を反映させた空間イメージのスケッチを作成。
- イメージスケッチをもとに、ワークショップで議論した内容を反映し、さらにスケッチを修正。
- 基本構想案に反映させるための、最終的な意見・アイデアのとりまとめをおこなう。

安威川ダム周辺地域を整備するにあたっての構想案の作成へ



【ワークショップでの府民の方々からの周辺整備に対しての意見】(一部)

ダムと湖面の眺望の良さを活かすことが重要で、湖面橋の景観、斜面地形も眺望に活用できる場に工夫する / 地域住民と来訪者が交流できる場を設け、ダムがあるこの地域でしか体験できないことをしたい / 日常に触れることがないダム湖湖岸を利用できるのは、安威川ダムならではの魅力 / ダムの展示を活かした四季を楽しめるような景観づくりをする / ダム周辺を巡るようにハイキング道とのネットワークを考えると良い

一緒にビオトープ活動をしませんか?

平成27年3月(※)から車作地区で、使われていない田んぼと周辺環境の再生に取り組む活動が行われています。この活動は、多様な生きものが生息する場であるビオトープづくりとその環境を維持することを目的としています。

安威川ダム建設事務所では「車作ビオトープ愛好会」を立ち上げて、大学生や地元の方等と毎月ビオトープの育成管理・観察、もち米づくりなどの活動を行っています。一緒に楽しみながら汗を流しませんか?

車作ビオトープ愛好会にご興味、関心のある方は、ぜひご連絡ください。
問合せ先：大阪府安威川ダム建設事務所企画グループ TEL 072-626-6083

